

香川県中讃地域における水害に関する意識調査

小保田春加

I. はじめに

近年日本の各地で災害が発生しているが、2018年は、6月28日から7月8日にかけて西日本を中心に広い範囲で、台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨が記録された。気象庁はこれを「平成30年7月豪雨」と命名した。大雨特別警報は、運用開始以来最多の11府県に発表され、死者は全国で200名超になる（気象庁HP）。目立った被害は、広島県や岡山県など西日本に集中したが、北海道から中部地方までの地域でも被害がでている（気象庁HP）。

この水害は、普段あまり災害が起こらないとされる香川県にも被害をもたらした。被害内容は、堤防の一部損傷や土砂崩れによる住家破損、床下・床上浸水などであり、負傷者も1名確認されている（香川県HP）。

また、7月豪雨のあと、8月にも西日本は豪雨に見舞われている（香川県HP）。香川県民にとっては、普段あまりない災害が身近に感じられた1年だった。そこで、平成30年水害を経験し、香川県民が現状どのような水害に関する意識をもっているかを調査することとした。

II. 対象地域と被害の概要

対象地域は、7月豪雨で被害があった香川県丸亀市やまんのう町を対象とする（図1）。中でも中津町や土居町など4つの地区を選択した。以

下、各地区の特徴を述べる。丸亀市中津町（東部・久国）は、丸亀市を流れる金倉川の最下流に位置する地区である。金倉川は過去にも水害履歴があり、金倉川の洪水ハザードマップで危険地区とされるのが、中津町である。今回の7月豪雨では被害はなかった。丸亀市土居町には、香川県の一級河川である土器川流域に位置する。土器川も過去に水害記録があるため、香川県は土器川流域の一部に「重要水防箇所」を設定している。これは、堤防の高さや幅、過去の漏水などの実績から、危険箇所を早期に発見するた



図1 対象地域概観

めに、あらかじめ水防上、特に注意を要する区間を定め、重要度に応じて重要水防箇所として周知するものである（香川河川国道事務所、2016）。土居町は「特に重要な箇所」として定められている。そのうち土居町は町域が広いが、7月豪雨では土居町3丁目、土居町1丁目団地で被害があった。まんのう町岸上は、土器川上流部に位置し、土居町と同じく「重要水防箇所」の「特に重要な箇所」とされている。また、7月豪雨では越流して堤防が一部損傷し、周辺の住家に被害がでている。丸亀市飯山町北地区は、土器川支流の大東川流域であり、大東川がたびたび氾濫し、丸亀市の中では水害が起りやすい場所である。

III. 調査方法

方法は、丸亀市中津町、土居町、まんのう町岸上、飯山町北地区にそれぞれの自治会長を通して、地区住民へのアンケート調査を行なった。

ヒアリング調査は、まんのう町岸上はまんのう町役場職員に、飯山北は飯山コミュニティセンター職員に、残りの地域は自治会の方々ヒアリングを行なった。ヒアリング内容は、アンケート用紙の質問項目に加え、過去の水害履歴や防災対策などについて伺った。

アンケート調査は、アンケート用紙を住民数分2018年9月下旬に地区代表者（自治会長）に配布を依頼し、10月中に回答・回収をお願いした。11月下旬にはすべての地区から回収を完

了した。

また、対象地域を【被災経験あり】と【被災経験なし】にわけること、被災経験が調査結果に影響されるかみる。

- ①被災経験あり…中津町，土居町1・2丁目
- ②被災経験なし…岸上，土居町3・団地，飯山北

・被災経験なし	
中津町	65
土居町1・2丁目	109
・被災経験あり	
まんのう町岸上	174
土居町3・1丁目団地	132
飯山北	241

表1 アンケート配布地域と回答者数(人)

IV. 結果

アンケート項目は、別添アンケート用紙の通りである。項目ごとに結果を述べる。

IV-1 属性について

アンケートにお答えいただいた方の年齢は、⑥60代～⑦70代が60%以上で、次いで④40代が多かった。やはり勤労世代にお答えいただくことが難しく、高齢者中心の回答に偏ってしまった。一方、①19歳以下の回答も1桁人数だけいただくことができた。貴重な若い人の声も聞くことができた。次に、今住んでいる家に何年前から居住しているかを尋ねた質問では、88%

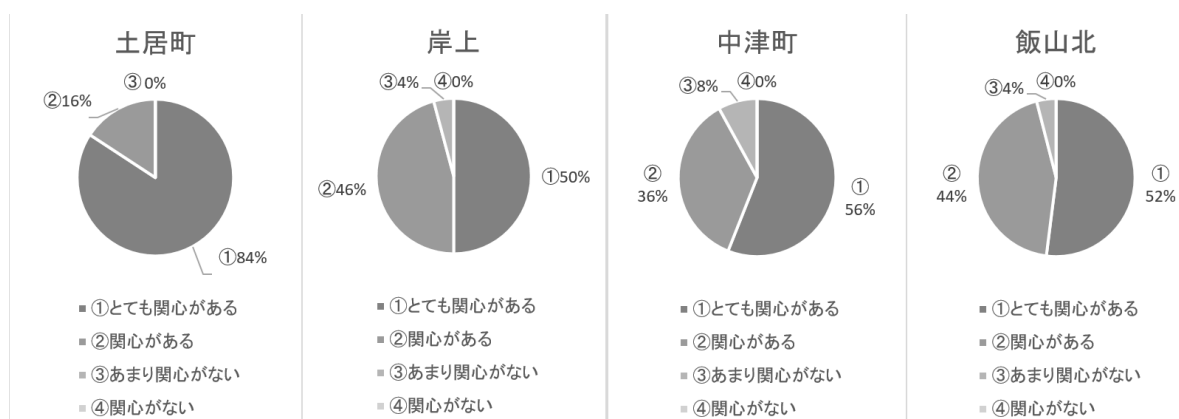


図2 災害に関心があるか

が⑤21年以上住んでいると回答した。次いで、①10年以下②11~13年となった。どのような住居にお住まいかという質問には、98%が①一戸建てと回答した。

IV-2 災害への関心

(1)あなたは災害について関心がありますか

①とても関心がある②関心があると回答した割合がすべての地域で90%を超えており、土居町では100%である。

また、①とても関心がある②関心があると回答した方に、さらに災害の中で特にどの災害に関心があるかと質問したところ、岸上・中津町・飯山北では「地震」「津波」「高潮」が多かったが、土居町では「水害」の回答がほとんどであった。

(2)大雨が降ったとき、あなたの住む地域は水害が起こりやすいと思いますか。

この質問に対しては、土居町は①起こりやす

いと回答した割合が89%と多かった。残りの3地域では、特に回答に偏りはなく、①起こりやすい②起こりにくい③わからないが回答がほぼ同等だった。

IV-3 家庭での防災対策について

(2)災害に備えて非常用持ち出し品を準備していますか

災害時のための避難グッズを常備している家庭は少なく、中津町が56%など半数以上の家庭が準備していないと回答した。一方、土居町は63%が①準備していると回答した。

(3)家族や隣人と非常時のための話し合いをしていますか

この質問に対しては、地域によって差が見られ、岸上と飯山北では100%の方が話し合っていると回答した。反対に、土居町や中津町では①積極的に話し合っている②話し合っていると回答する割合が、土居町で58%などであった。

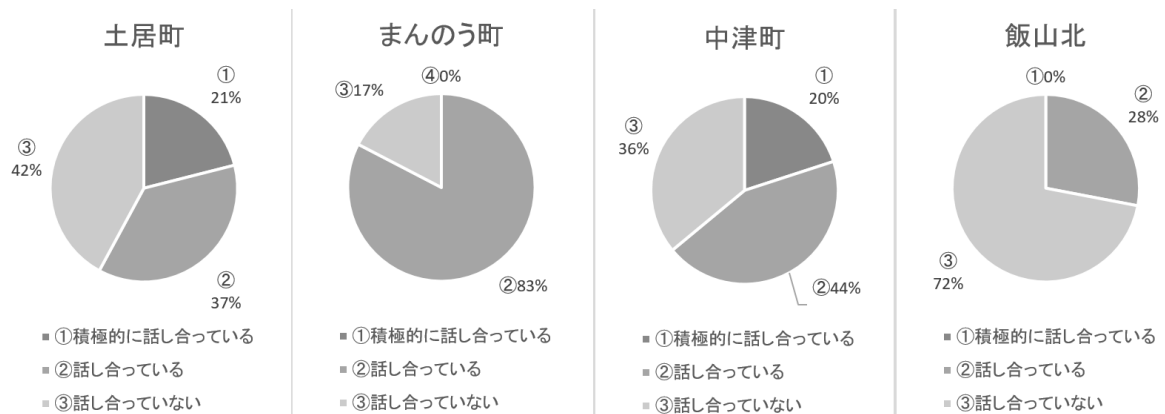


図3 家族や隣人と非常時のための話し合いをしているか

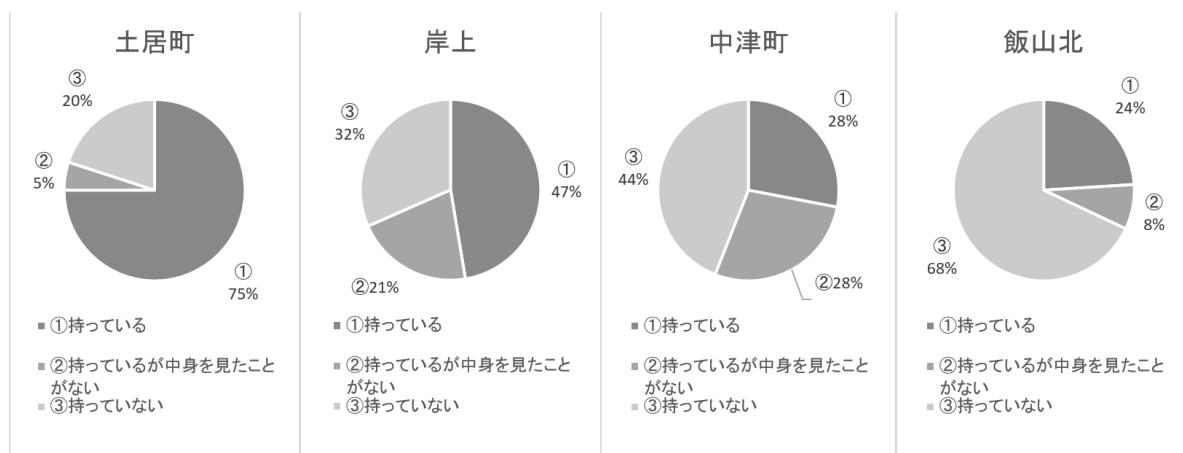


図4 ハザードマップを持っているか

に参加していると回答したが、他3地区について

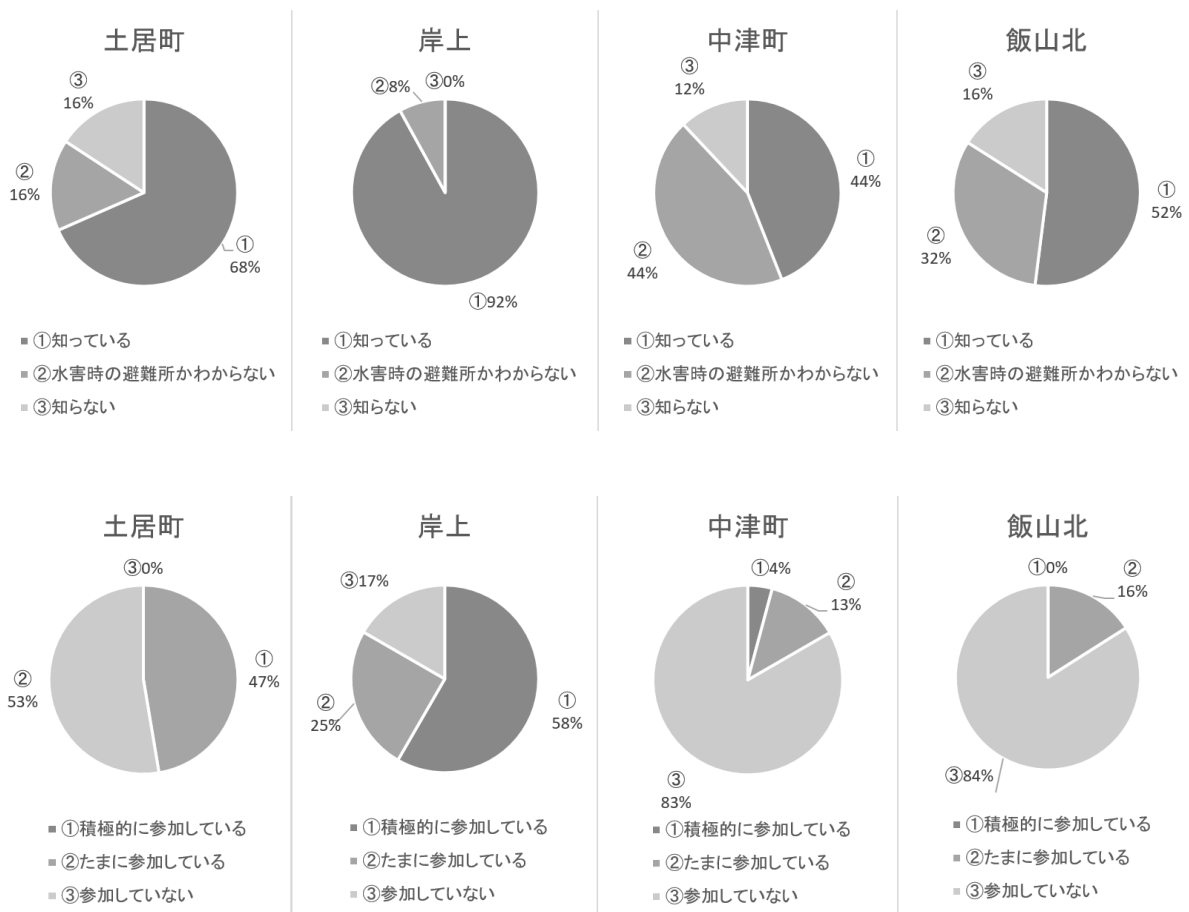


図6 地域の防災活動に参加しているか

IV-4 地域での防災活動について

(1) 洪水ハザードマップを持っていますか

ハザードマップの所持率は、あまり高いとは言えなかった。また、持っても見たことがないという人も多かった。特に飯山北では、③持っていないと回答した人が最も多く 68%であった。アンケートの最後の自由記述欄には「最新のハザードマップを配布してほしい」という意見があった。

(2) 水害時の避難場所を知っていますか

この項目では、多くの人が①知っているまたは②水害時はわからないが避難する場所を知っていると回答した。ヒアリングの際も、避難場所を住民で話し合って設定しているなどの意見もあり、積極的な回答が多かった。岸上では、100%が避難場所を知っていると回答した。

(3) 防災活動に参加しているか

防災活動については、岸上で 58%が①積極的

では③参加していないという回答がほとんどであった。防災活動は、自治体の積極性が問われるが、そもそも地域で行っていない地区もあり、地域全体の課題となりそうだ。一方、自治体が積極的に動いていると話す地区でも実際に参加する人が少ないという状況もあった。

V. 考察

V-1 被災経験による防災意識の差

表1で示した被災経験ありと被災経験なしの地域別で結果をみると、特にIV-4の3つの項目で、被災経験による防災意識の差が明確になった。例えば、ハザードマップの所持(図4)は、被災経験ありの地区は土居町で75%など多くの人が見たことがあるという回答に対し、被災経験なしの地区は持っている人が飯山北で24%にとどまっていて、68%が③持っていないと回答している。避難場所(図5)についても、

被災経験なしの地域で、中津町の44%が①知っているという回答するのに対し、被災経験ありの地域は岸上で92%が①知っているという回答している。防災活動については、被災経験なしの地区が参加している人が非常に小数な結果に比べ、特に岸上では参加している人が58%になっている。被災経験があることによって、住んでいる地域をもっと知ろうとする行動や意識が、結果に反映されていると考えられる。特に防災活動が活発な岸上は、7月豪雨でも被災したばかりである。

しかし、一方で、地域全体でみると上記のように防災に活発な地域があっても、家庭での備えについては、被災経験の有無に関わらず、非常用持ち出し品の所持や家庭での話し合いなど4地域とも積極的な防災意識はみられなかった。香川県全体が、他県に比べて被災経験が少ないために、誰かと一緒に活動するような機会がなければ、積極的な防災への取り組みはあまり期待できないことも考えられる。

V-2 組織の取り組みとその効果

今回の調査では、住民の皆さんにアンケートを実施しているのと同時に、自治体や町内会の方々にもヒアリングを行なっている。組織の取り組みに対して効果がでてきているのか考察していきたい。

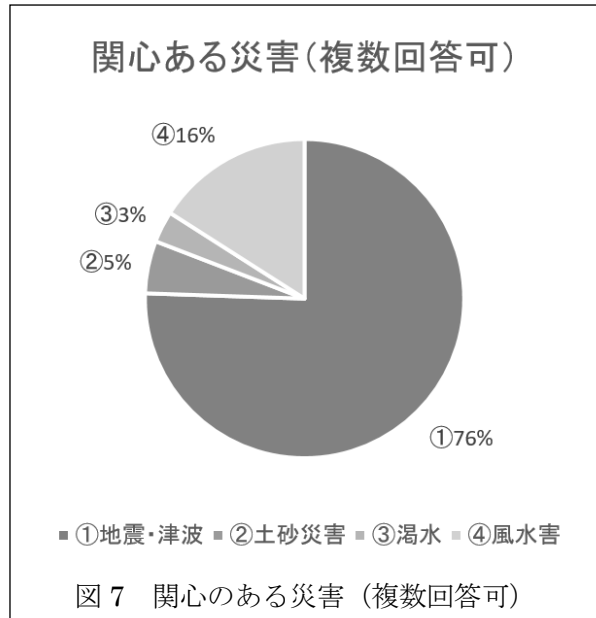
まず、香川県の各地域では、コミュニティセンターが設置されている。そこでは自治会長さんらが頻りに常駐しており、コミュニティセンターで定期的に催されるイベント等を通して、よく顔を合わせることができる。防災活動に限定せず自治会活動が非常に活発であった。

その中で、土居町は防災活動について、力を入れているお話を聴くことができた。避難訓練などはもちろん、地域防災に詳しい方を招いて講演を催すこともあるようである。本調査の結果でも、土居町では47%が地域の防災活動に②たまに参加していると回答しており、中津町の13%に比べて参加率は良い。だが、もっと若い人にも参加してもらいたい等課題もあるようである。

ある。

調査地域の中で、地域の防災活動に最も積極的であったのが、83%が参加していると回答したまんのう町岸上である。町役場防災担当の方にヒアリングをしたが、今回の7月豪雨でも被害があったように、土器川が急カーブする地点になっているためこれまでも数回堤防が損傷しているのに加え、南には土砂災害区域も抱える地域で、防災対策を積極的に行なっているという。その動きが住民の防災意識にもつながっていると考えられる。

また、水害がめったに起こらない香川県では、南海トラフ地震への危機感と日本各地の地震発生から最近では地震への意識が高まっているようである。災害への関心も、地震や津波が最も関心が高かった(図7)。自治会や行政が行う対策でも、南海トラフなど危険視されている地震への対策を重点にしているようだ。災害への関心がすべての地域で90%を超えていたことも、地震への対策が影響しているかもしれない。



VI. まとめ

平成30年水害の被災を契機に、水害への危機感が希薄とされる香川県を対象に、水害に関する防災意識調査を行なった。結果、対象地域では災害への関心が非常に高く、地域での防災活動は活発であった一方、家庭での防災活動は

少ない結果になった。地域によっては、これからの防災対策への課題も見られた。本調査を機会に今後さらに地域でも個人でも十分な防災活動が行われることを願っている。

謝辞

今回の調査にあたり、丸亀市市民活動推進課、まんのう町役場防災担当、各コミュニティセンターの方々には、多くの有益な情報をいただいた。また、現地調査に協力してくださった研究室の先生、ゼミ生に深く御礼を申し上げる。

引用文献

・香川県 HP

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/subs>

[ite/mizu/kagawa_m/rekishi/index.shtml](http://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/subs/ite/mizu/kagawa_m/rekishi/index.shtml)

・気象庁

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bos/ai/report/2018/20180713/20180713.html>

・レファレンス協同データベース

<http://crd.ndl.go.jp/reference/>

・ウェザーニュース平成 30 年 7 月災害特設サイト

<https://weathernews.jp/s/news/rain201807/>

・香川河川国道事務所（2016）第 1 回土器川大規模氾濫に関する減災対策協議会資料 3-1

水害に関する意識調査アンケート

長野県信州大学教育学研究科 小保田春加

2018年は、7月豪雨（西日本豪雨）や台風21号など、災害の中でも特に水害の脅威を身近に感じる機会が多かったかもしれません。このアンケートは、みなさまの水害への関心を把握するための研究の一環でおこなうものです。幅広い世代の方にお答えいただくと大変ありがたいです。また、このアンケート結果はすべて統計的に処理しますので、個人情報外部に漏れることは一切ありません。お手数おかけしますが、ご協力のほどお願いいたします。

I, あなた自身についてご回答をお願いします。

(1) 年齢

- ①19歳以下 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70歳以上

(2) 住所、自治体名、町内会名 など

(3) 居住年数

- ①10年以下 ②11～13年 ③14～16年 ④17から20年 ⑤21年以上

(4) どのような住居にお住まいですか。

- ①一戸建て ②集合住宅の1階 ③集合住宅の2階 ④集合住宅の3階以上 ⑤その他

II,

(1) あなたは災害について関心がありますか。また、①、②とお答えの方は、最も関心がある災害を a～g の中から一つ選んで下さい。

①とても関心がある

- a.地震・津波 b.土砂災害 c.渇水 d.風水害 e.高潮 f.雪害 g.火山

②関心がある

- a.地震・津波 b.土砂災害 c.渇水 d.風水害 e.高潮 f.雪害 g.火山

③あまり関心がない

④関心がない

(2) 大雨が降ったとき、あなたの住む地域は水害が起こりやすいと思いますか。

①起こりやすいと思う

②起こりにくいと思う

③わからない

(3) 水害の時、危険だと思う近くの川がありましたらお教えてください。

()

III,

(1) 自宅または自宅周辺が浸水したことがありますか。

①自宅が浸水したことがある

②自宅が浸水したことはないが、自宅周辺が浸水したことがある

③自宅や自宅周辺が浸水したことはない

④その他

()

(2) あなたは災害に備えて非常用持ち出し品（保存食、水、ラジオなど）を準備していますか。

- ①準備している
- ②以前は準備していたが今は準備していない
- ③以前は準備していなかったが今は準備している
- ④準備していない

(3) 家族や隣人と非常時のための話し合いをしていますか。

- ①積極的に話し合っている
- ②話し合っている
- ③あまり話し合っていない
- ④話し合っていない

IV,

(1) あなたが住んでいる市や町の洪水ハザードマップを持っていますか。

- ①持っているし、見たことがある
- ②持っているが、見たことはない
- ③持っていない

(2) 「①持っているし、見たことがある」とお答えの方は、ご自身の地域がハザードマップ上でどのくらい危険だったか、覚えていらっしゃることをお教えてください。

()

(3) あなたは、市や町が指定した水害時の避難場所を知っていますか。

- ①知っている
- ②避難場所は知っているが水害時の避難場所かどうかは知らない
- ③知らない

(4) あなたは地域の防災活動（避難訓練や講演など）に参加していますか。

- ①積極的に参加している
- ②参加している
- ③あまり参加していない
- ④参加したことがない

【自由記述欄】

ご自身の経験や、日頃の災害について思うこと、自治体への要望等あれば、どんなことでもお書きください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。